

# (公社)日本地すべり学会関東支部 令和3年度オンライン講習会 開催報告 - 富士山と災害 -

## 1. 実施概要

本年度は、オンライン講習会として、山梨県富士山科学研究所のご協力を得て、「富士山と災害」をテーマとしたオンライン講習会を実施しました。

富士山は、山梨県と静岡県にまたがる成層火山ですが、日本の象徴として、国内外に広く知られており、「富士山-信仰の対象と芸術の源泉」として世界遺産にもなっています。一方、富士山は、古くから、噴火をはじめとして、いろいろなタイプの災害が発生している場所でもあります。ここでは、富士山をフィールドとする研究者に講演をお願いして、富士山と災害について、理解を深めたいと考え、講習会を開催しましたので、報告します。

- (1) 開催日：令和3年8月10日(火)
- (2) 開催場所：ハイランドリゾートホテルSPA会議室  
よりオンライン配信(zoom利用)
- (3) 主催：(公社)日本地すべり学会 関東支部
- (4) 協力：山梨県富士山科学研究所
- (5) 講演者：富士山火山防災研究センター長  
吉本充宏 氏
- (6) 参加人数：80名

## 2. 講習会の内容

講習会では、富士山の成り立ちから富士山噴火の特徴やハザードマップ、噴火時の避難や普及啓発活動について学びました。

ご講演いただきました吉本様は研究所に属する富士山火山防災研究センターのセンター長であり、富士山科学研究所は、富士山の自然、文化、火山防災を重点的に研究する県直轄の研究機関であります。

まず、富士山は、玄武岩主体の化学組成をもち、様々な噴火形態を持つ特徴があり、玄武岩質であることから、火口がいろいろなところにでき、玄武岩マグマは移動速度が速いといった噴火の特徴をお話しいただきました。噴火活動については、資料映像を通してわかりやすい説明をいただき、生活への影響を身近に感じられるようになりました。また、噴火形態を考慮したハザードマップについて説明をいただき、ハザードマップもまた新しい技術やデータの蓄積によりマップの改定が行われていることも伺いました。さらに、これらマップを利用して、富士山の地形を考慮した避難、噴火警戒レベルの登山者、一般住民等への周知の取り組みについて教えていただきました。普及啓発では、シミュレーションによる理解の深化を図られ、住民説明会や研究会、防災教育の実施をされ、リスクの正しい理解を通して命をまもる活動に取り組まれていることがわかりました。

今回は、富士山の成り立ちからハザードマップ、普及啓発への流れについて一貫してお話を聞けて非常に理解が深まりました。また、本講習会では、火山としての富士山を災害という側面から学ぶことができ、非常に有意義な機会となりました。

## 3. おわりに

関東支部では、今後も現場に密着した講習会や現地検討会や学生・若手技術者の育成をテーマとした活動を実施していく予定です。

最後に、講習会の開催にあたり、御協力頂いた山梨県富士山科学研究所富士山火山防災研究センターの吉本様また関係者各位には大変お世話になりました。ここに記して、厚く御礼申し上げます。

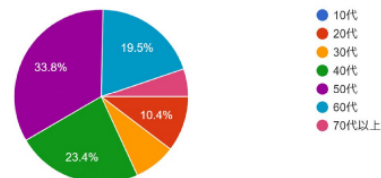


写真-1 講演者：吉本富士山火山防災研究センター長

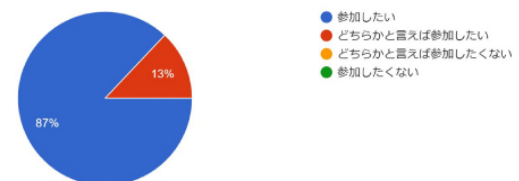
## (参考)アンケート結果概要

幅広い年齢層の方のご参加をいただき、今後もこのような講習会に参加したいとのご意見を多数いただきました。アンケートへのご協力ありがとうございました。

回答者の年齢  
77件の回答



今後もこのような講習会に参加したいですか？  
77件の回答



( 関東支部幹事会 樽角晃 )